

# 議会広報特別委員会

日 時	令和 8年 2月13日 (水) 閉会中	10時33分 開会 12時02分 閉会
場 所	相良庁舎 4階 第3会議室	
出席議員	(委員長) 8番 絹村智昭	(副委員長) 3番 石山和生
	7番 鈴木長馬	6番 菅沼保弘
	2番 篠崎朗子	1番 中山尚大
欠席議員		
法第105条出席		
事務局	書記 増田 奈菜子	書記 中田 綾
説明員		

署名 \_\_\_\_\_ 議会広報特別委員長

---

開会の宣告

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それでは広報特別委員会を開会します。よろしくお願ひします。

---

3 その他

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それでは、今、菅沼委員がちょっと遅れるということなので、委員会のほうを、次第、3番のその他のほうから進めさせていただきます。

まず1件目なんですけど、議会だより、今度は2月15日に発行されるんですけど、そこでちょっと誤りがあったので、そこで訂正文を出すか出さないかという協議を、その説明だけお願ひします。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

すみません、前回の委員会の資料になってしまうのですが、1月28日のフォルダに入っている議会だより第81号の原稿をご覧ください。

誤りがあったのが6ページ目になります。議決結果と概要の欄です。この上から2段目、11月定例会の横に、全会一致のものと記載があるかと思ひます。全会一致のものだけ上に書いて、賛否が分かれたものを下に書いている状態です。これにつきまして、作業をしてくださる印刷会社さんにこの原稿をお渡ししたところ、上と同じ全て全会一致と書かれた状態の原稿が送られてきてまして、本来であれば全会一致のものと書いて送ったはずなんですけれども修正ができていなかった、こちらで最後の確認のときに誤りに気づけていなかったということがございました。なので、印刷時には「11月定例会（全て全会一致）」と書かれた冊子が印刷されるということになります。

これにつきまして、次回の広報で訂正文、おわび文を掲載するか否かを協議いただきたいという内容になります。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ありがとうございます。

要は、11月定例会「全て」というのが入っているということだよな。

○事務局書記（増田奈菜子君）

そうですね。上の臨時会と同じく「全て全会一致」と書かれた状態になっております。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ただ、自分の中ではこの定例会、全て全会一致、「て」が入っているだけなので、特におわびの訂正はいらないのか、間違っていないと思ひているんですけど、自分は。皆さん、どう思われるか。「ものも」入るのか。

○事務局書記（増田奈菜子君）

これが、本来であれば全会一致しているものと賛否が分かれたもので二つあったので分けて書きたかったのですが、上の段に全部全会一致していますよという誤りの情報が載っ

ている。上にある11月臨時会は全て全会一致しているので1個の表でまとまっているんですが、全会一致したものと賛否が分かれたもので二つある場合は表を分けて、こちらのおり全会一致のものとそうじゃなかったもので分けて書かなきゃいけないんですが、全て全会一致している、上の表のような書き方をされちゃっている状態になります。ただ、一応賛否が分かれたものの表ももちろん載っているんで、賛否が分かれたものと全会一致で通ったものの分け方はされているが表記が間違っているという形になります。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

分け方は合っているんだけど、間違っていないんだけど、今言われたとおり表記がちょっと違っている。

**○ 事務局書記（増田奈菜子君）**

タイトルの表記が違っているという形になります。

**○（中山尚大君）**

なぜそういった間違いが起こったのか、経緯というのは。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

これは自分たちも見落とししたという部分も、最終確認で。申し訳なかったというところがありますので。

副委員長。

**○（石山和生君）**

これって今の話だけなんでしたっけ、ミスっているのって。一番下の1月臨時会というやつは大丈夫なんでしたっけ。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

これは問題ないです。

**○（石山和生君）**

これはいいのか。臨時会が1月だったからか。じゃあ大丈夫なんですね。僕、ちょっと勘違いしていた。了解です。

いいんじゃないですか、全てが抜けていました。全て全会一致のものではなく全て。違う。全て全会一致ではなく、全会一致のものでしたと訂正文を入れたらいいと思います。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

じゃあ、皆さんのご意見を尊重して、訂正文を入れるという形でお願いします。

事務局。

**○ 事務局書記（増田奈菜子君）**

承知いたしました。では、次回の第82号でこの部分に関して訂正文を入れさせていただきます。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

今、中山委員もおっしゃっていたんですが、今後これが起きないようにということは考えなきゃいけないくて、今までの4年間的にもここのページは事務局がやってくれているよねみたいな雰囲気がありましたね。今回も通り抜けたわけですね。今回も通り抜けてしまったということで、ここもしっかりと、どうやって見るか分からないけど、まずは

この見出しだけは必ずチェックするのかどうかみたいなことをやらなきゃいけないかどうかみたいな話はどうですか。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

それこそ、自分も今の副委員長の意見にあれなんですけど、やっぱり事務局がこれを作成、校正してくれているんですけど、やっぱりしっかり自分たちもこのところは、見出しもそうだけど、全体をしっかりと見ていかなければというのを自分は思っているんですけどね。

副委員長。

**○（石山和生君）**

今の一番上の見出しだけチェックなのか、件名と概要をやるのかという。過去に件名がちよっと違ったみたいなものもありましたよね。

**○ 事務局書記（増田奈菜子君）**

前回号でありました。

**○（石山和生君）**

なので、そこを体制どうするかですね。また、引き続き事務局と、今後は事務局の中でも回し読みしますみたいな話もありましたよね。そういう解決方法でいいのかどうか。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

事務局。

**○ 事務局書記（増田奈菜子君）**

事務局側の対策として、小山紙店さんに出していただいたゲラ刷り原稿と私たちが直したデータ原稿を、ゲラ刷りの到着時点で事務局でも回覧して、課内全員で閲覧、修正をするということはしようと考えております。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

なので、それプラス、我々が抜けていたのも、データは大丈夫なんだけど、ゲラ刷りが違ったということですよ。だから、まだどっちか見るんじゃないかと、その比較もやっぱり一応1ページ1ページしたほうがいいということですね。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

なので、こういうコメントとかそういう、普通はちゃんと確認していくんだけど、強化していくしかないですよ。強化というか、またしっかりとした、やりようがないとか、言いようがないとか。

**○（石山和生君）**

本当、一つ一つ見てくというのは必要ですねということでもいいんじゃないですか。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

あとは、自分の中で、ゲラ刷りと、皆さんゲラが来るじゃないですか、あれと一回事務局から説明はあるんだけど、どっちが、こっちのタブレットのほうが正しいのか、こっち側が、自分も4年間やってきて、どっちが正しいのみたいな、そういうところがあったんだけど、事務局からこっちが最新の一番合っているほうですという話があるので、基本そっち側を見比べながらやっていくという流れの中で、今までどおりの形になるのかなとい

う、そこら辺は。

事務局。

**○事務局書記（増田奈菜子君）**

基本的には委員会が終わった後にゲラ刷りで出してもらって、その後また修正を都度見つけたところをかけていくので、一番新しいのはやはりデータになるんですが、印刷にしたときどうなるかを見たりだとか、今回みたいにもともと頼んだものがそのまま入っちゃっていたりとかというミスもあるので、やっぱりどっちも見なきゃいけないという形にはなります。

これは広報紙、広報まきのはらのつくり方なんですけど、広報まきのはらは実はゲラ刷り原稿というのをやっておらず、完全原稿といって、こっちで完璧につくった原稿を渡して印刷してもらおうという方式を取っているそうです。なので、思い切ってゲラ刷りをやめてデータで完全原稿にして渡して、最後の最後で比べるということもできなくもないのかなと思いつつ、今までやっていたやり方を大きく変えてしまうので、もしこれをやるとしたら皆さんのご意見を聞きつつ変えていきたいなというところなんです。もちろん、小山紙店さんとの調整だったりとかもあると思うので。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

広報まきのはらは何でつくっているんですか。イラレ。

**○事務局書記（増田奈菜子君）**

イラストレーターです。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

中山委員。

**○（中山尚大君）**

今おっしゃったこと、私、ゲラ刷りなしで大きく変わるのには致し方ないとして、何も問題ないと思っております。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

多分、問題は事務局がそれができるのかというところだと思います。技術的にも労力的にもそれは実現可能なのか。どうせこれを行っているんだからというのはあれど、どうなんでしょうとは思いますが。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

事務局。

**○事務局書記（増田奈菜子君）**

懸念点としては、こちらはイラストレーターではなく全部ワードでつくっていることによる、小山紙店さんが全部打ち直しをしていると思うんですね、こちらがつくった原稿に対して。コピペをしたりだとか、その違いを見るのに双方確認が必要だからゲラ刷りというところもあるのかなというのがあるので、チェック体制を大きく変える、せっかく3回のチェック体制があるのにこれを崩してしまっているのかという不安と、もともとワードだ

ったものを打ち込む手間があることを考えると、今、発行の実際の二、三週間くらい前にはあらかじめ原稿を大枠つくって渡して、それを徐々に修正する形を取っているのに、1週間前に20ページ分の原稿を渡してそれを全部打つという作業が印刷会社側で可能なのか。やっぱり20ページ分を全部つくるのが大変、そこからさらに自分たちが打ち込んだデータを修正してもらうのに一回送って、また待ってだと、締切がどうなるかという話もあると思うので容易に変えることはできないんですが、あくまで広報のやり方としては完全原稿で出しているそうです。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

これまでの4年間の流れの中で、ゲラ刷り前3回やっていたよね、たしか。それで今減って、2回ゲラだと思ったが。

**○事務局書記（中田 綾君）**

ゲラの回数自体は変わっていません。2回です。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

2回だけか、そうか。たくさんあったような気がしたけどね。いいです、それでは間違いました。

副委員長。

**○（石山和生君）**

僕も2年前くらいにC a n v aでも何でも使ったらいいじゃないかみたいな話をして、そのときはワードでいいですよって、事務局がそう言うならいいですけどとなったんですけど、事務局次第ですね。正直ワードって相当使いづらいと思うので、僕はワードじゃなくて、ただイラレはちょっとあれだったらC a n v aとか、ただ業者さんがC a n v aだと困るというパターンもあるので、そこら辺は本当調整が必要ですけど、事務局もそっちの業者さんも楽なやり方があるのであれば模索していいと思いますけど、多分ここら辺でいきなり変えるのは、直近では少なくとも無理だというふうには思います。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長が言ってくれたように、本当に一番やりやすい形、事務局サイド、そして小山紙店さんのほうかな、あちらの業者さんのほうのやりやすい形で持っていってもらえればなど。急に変えると考えなく、こういう課題もあるよというところなので、承知しておいていただければというところです。

事務局、変更点だけ説明してもらっていいですか。

**○事務局書記（増田奈菜子君）**

ここまでの委員会の流れなんですけど、前回まで見ていた第81号に訂正がありまして、申し上げます。

**○（菅沼保弘君）**

第81号に訂正があった。

**○事務局書記（増田奈菜子君）**

我々はデータで、全会一致のものと書いているんですけども、これが全て全会一致と書いてある状態のものが印刷されることになってしまっていたと。最後の委員会で、ここが全て全会一致とゲラ刷り原稿には書いてあったんですけど、それに気づかなかったんですね。本当だったら、11月定例会って全会一致のものと賛否が分かれたもので二つあった

ので、この書き方をしないといけないんですが、結果として、間違いに気づけなかったの  
で、全て全会一致とここに書かれた広報紙ができてしまったということで、訂正文を次回  
出そうという話に、この委員会内でなったところです。

それこそ、そういったことがないように、どういう事務体制を取っていくかというのを  
話して合っておりまして。

○（菅沼保弘君）

ありがとうございます。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ありがとうございます。いいですか。おわびの文が次号に載るということで、共有して  
おいていただけますか。お願いします。

それでは、事件のほう、（1）に行きます。牧之原市議会だより「かけはし」の紙面の  
リニューアルについての今後のスケジュール等について、議題とします。

事務局。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

先に、3のその他の中に、次回の日付についてもありますが、それは最後でいいですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それは最後にしようかなと思ったんですけど、やっちゃいますか。

副委員長。

○（石山和生君）

その他は後でいいとして、その前に、前月号の話なので、今、先にやったほうがいいな  
と思ったんですけど、議長コメントのものだけ言っておいたほうがいいかなと。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

この資料にはないんですけど、前回の。

17ページ、議長からのコメント、こちらから一度、議長からコメントをいただいた中で、  
自分たち委員会から、もうちょっと訂正したほうが市民にとっていいんじゃないかという  
ことで申送りを議長のほうにしたところでありまして。そういう中で、議長のほうから修正  
があったということで、これは期間も間に合うぎりぎりの中でなったので、自分の中では  
これで議長のコメントだということなので、それを今度の15日には直す形になりますとい  
うことだけ報告しておきます。

副委員長。

○（石山和生君）

補足です。小山紙店さんに最終原稿を出すその日か1日前に、どういう変更かといっ  
たら、事実ではなくでしたっけ。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

2月3日くらいですかね、原稿を提出し、かつ正副委員長に確認していただく1日前に、  
議長、副議長、それから議会運営委員会の委員長が原稿を確認しまして、今の状態のまま  
だと、さも取下げが事実かのように見えるような内容のコメントになってしまっていると。  
ただ、実際には取り下げられたと言われていた一般質問に関しては実は正式な提出前で、

正式な提出前に取下げしてくれないかと言われて自主的に取り下げた形になるので、実際には取下げではないという話があったんですね。なので、それが伝わるように、17ページの上から7から8段目に「11月28日に竜巻関連の一般質問を取り下げたとの報道がありました」の後に、「事実ではなく」という言葉を入れて、「これについても」と続くような形で修正をさせていただいたという形です。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

というのが連絡が来まして、小山紙店さんのところに出さなきゃいけないということだったので、本来であれば委員会で全員で決めたことなのであれなんですけれども、もう決めなきゃいけないということで委員長、副委員長で判断させてもらいましたと。その中では、委員長がいいのであればいいかなと、文言追加に関していいかなと、別に。議長からのコメントで議長からの修正依頼があって、その内容自体を別にいいというんだったらいいなと思って、判断させていただきました。

本来だったらあれだったんですけど、本当に出さなきゃいけないという状況だったので、僕たちでやっちゃいましたということだけ報告させていただきます。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

今、副委員長が言ったとおり、そういう形を取らせていただきました。強調されたというところかなというのを感じているところであります。

一応報告ということで、よろしくをお願いします。

では、じゃあその他の続きは全部やっちゃいましょう。すみません。

それで、次回の委員会の開催なんですけど、20日に予定してあったものを18日にしたいという。

事務局、ちょっと説明をお願いします。

**○事務局書記（増田奈菜子君）**

前回の委員会で、2月13日、本日で2月20日に議会広報特別委員会を開催するという予定がございました。なんですけど、20日に文教厚生委員会を開催する予定ができ、かつ19日に総務建設委員会を開催する予定ができ、また18日に、議会改革特別委員会を開催する予定ができて。

失礼しました。19日に総務建設委員会、20日に文教厚生委員会を開催する予定がありますので、広報の委員会の時間などをちょっと調整させていただきたいと思っております。基本的には20日の文教の後、もしくは19日の総務建設委員会の後、ないし18日の合同協議会の議案配付の後。これが18日の合同協議会がかなり長丁場になることが予想されておりまして、恐らく午後になるであろうという感じなのですが、皆様のご予定としてはいかがでしょうか。

**○（石山和生君）**

大丈夫そうですね。1時半のほうがいいですか。

**○事務局書記（増田奈菜子君）**

予想が、9時から3時間半ぐらいかかる予定なので、その場合、1時間ぐらい皆さんも昼休憩がほしいかなと思ったんですね。そこか、もしくは総務の後、総務の時間が読めな

いんですけれども、19日来ていただくか、もしくは20日の文教の間、ちょっと待っていて、その後やるかかなと思うんですけれども。

19日だと、文教側の人が無何もないところに来ないといけないので、全員がいらっしやるとなると、18日の午後か、20日の文教の終了後です。

○（石山和生君）

いいんじゃないですか、18日の13時半からで。

○（中山尚大君）

19日は常任委員会合同協議会。

○（石山和生君）

が18日で1日でやれちゃいそうだから移動するんですけど、19日には総務建設委員会の委員会があるという状況です。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

一応それでは、今の18日の午後からというか、常任委員会合同協議会が終了後ということでお願ひします。忙しいところ、すみません。

---

2 事件 (1) 牧之原市議会だより「かけはし」紙面のリニューアルについて

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

じゃあ、そのほかのほうは一応終わりましたので、事件のほうへ入ります。

牧之原市議会だより「かけはし」紙面のリニューアルについて、皆さんからいただいたリニューアル案、これを事務局のほうで整理させていただきましたので、各どういう形でリニューアルしていきたいかなというのを、もしあれなら中山委員のほうから。簡単にこういうのを持ってきましたよと、自分の提出したものを説明してもらえればなど。

○（中山尚大君）

発言させていただきます。まず、提出したものが、文字を読みやすくレイアウトを分かりやすくするというのは私が提出したものになっております。あとは、ここの青いやつとか、SNSでの強化とか配布方法の強化とか、紙面サイズの変更、表紙をもっと特徴的にとか、いろいろ書かせていただきました。

私が一番まず、というかちゃんと明確にしたほうがいいのかと考えているのが、何をもって議会広報紙なのかということで、どこまでいじってよくて、どこはいじっちゃいけないのかというのを明確にさせていただけると話をしやすいのかなとは考えています。例えば一般質問は絶対に入れてとか、議決の誰が賛成した、賛成していないは絶対に入れるとか、逆に言うと、それ以外は議会に関係するのであれば変更していいよみたいな、そこら辺の明確な、変えていいところと変えていけないところの明確化は大事なのかなと思ひました。

あともう一点が、配布方法の変更と編集方針の変更というのを明確に分けた上で考えたほうがいいのかと感じていました。

私個人としては、本当に議会広報紙ということで、言い方的にあれですけど、興味を持ってられる方がまだまだ少ないのかなというふうに思うので、記事を変えるとか、それよりも何よりも読んでもらう、手に取ってもらう、開いてもらう、文字を読んでもらうと

ということが重要なので、配布方法に関して、かなり力を入れたほうがいいのではないかなということ、この青いところでざっと書かせていただいたものを入れさせていただきます。

記事の内容に関しては私もいろいろアイデアを出したんですけども、やはりゼロ1で完全に新しいアイデアを牧之原広報紙出すのは難しいので、他の市町のものを使い参考にしていく、いいものがあればどんどん取り入れていくという方針がいいのかなというふうに考えています。

以上です。

#### ○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ありがとうございます。

じゃあ、菅沼委員。

#### ○（菅沼保弘君）

私のほうから提案させてもらったのは、予算の審議なんかで、予算が市の広報だと円グラフで出ているんですけど、予算補正を行ったところのどこを補正しているのかというのが分かりにくい。あと、数字だけなので、いっそのこと全グラフに対してここが変わったよということを明確にしていくとかと、そういうこともいいんじゃないかなと思ったんですけど。

あと、一般質問の記事なんですけど、冒頭の趣旨とか明確になる言葉を赤字にしちゃうとか、もうちょっとインパクトを与えてやったほうが見やすいのかなと思ったんですけど。

あと、議員紹介のところ、各個人の活動なんかもしていますので、そこら辺を各個人ごとにピックアップして自己アピールを入れてもいいんじゃないかなというのは、一つ入れました。

それと、あと季節ごとにテーマカラーを変えて色をはっきり区別していったらどうかなという、ちょっと目立つようなことをしたらどうかなというのを入れました。

以上です。

#### ○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ありがとうございます。

じゃあ、篠崎委員。

#### ○（篠崎朗子君）

私のほうからは主に内容なんですけれども、これまで皆さんが読む機会が少ないということなので、こちらからの一方的発信ではなく双方向ということ意識して、この三つを書かせていただきました。

実際に参考にしたものがここにあるんですけども、賞を取ったところなんですけれども、やっぱり市民の声というものを拾って、それに対してどうだったかというところ、それが予算でもされていますし、例えば一般質問でも市民のそういう声からこういうことになりましたというような双方向、私の意見を聞いてもらえたんだとか、こういう意見がちゃんと議論されたんだというようなことを載せていくような方向性も、すぐに変えることはできなくても、そういうような方向性に持っていったらいいかなということと、あとは、やっぱり難しい言葉とか、議会そのものに親近感を持っていただくために、ちょっ

と学べるコーナーみたいなものをつけたらどうかなと思いました。

以上です。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

ありがとうございます。

じゃあ、鈴木委員。

**○（鈴木長馬君）**

まず、私は表紙の写真、これについて広報紙の写真を、例えば地域の特性とか、それから地域の例えば油田の里とか、それからいろんなところを撮って、地域ごとの特色を出すものを出せたらいいなと思って挙げさせてもらいました。

それから、紙の質を変えるということですけど、上質の紙を使っていますけど、紙の質を変えればコストダウンにつながるんじゃないかなと思ひまして、これを挙げさせてもらいました。

それから、紙面を少なくする、これについても内容を検討して、必要なもの、必要でないものとか、それを基にもう一度、再度検討していけばいいと思ひております。

それから、議会だよりの作成日数を短くするというんですけど、これは何とか短くできたらと思ひて挙げさせてもらいました。

以上です。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

ありがとうございます。

じゃあ、副委員長。

**○（石山和生君）**

私は、過去のリニューアル案に加えて、やっぱりどうしてもやりたいのは議員紹介の常設化です。1ページ増やすでもいいですし、1ページ、ページをまたいでもいいので、市民の皆さんが困ったときにこの人だったら頼れるなと思ひてすぐ連絡できるような。わざわざホームページに行きませんから。一応広報は全戸配布されているので、そういうのが必要だなと思ひています。

コンテンツに関しては、正直今、詰め詰めですよ。だから、ここから削るというのは正直厳しいと思ひています。もしページを増やすのであればページを増やす、かわりに予算が上がる、もしくは一般質問とかのページを一人1ページじゃなくて、1ページに4人とかにしてページの空きを空けて、そこに新たなコンテンツを入れるなどになると思ひます。

なので、どこまでできるかを含めて、今アイデア出しなのでいいと思ひうんですけど、現実そんなぼんぼん入れられるような、入れるんだったら何か削るということをやらないといけない。削る余地は正直あまりないんじゃないかという。削るとしたらやっぱり一般質問を削る、ページ数を少なくするとか、多分そういう話になるんじゃないかなと思ひます。

以上です。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

ありがとうございました。

私のほうからは、まず、それこそ今、副委員長が言われたとおり、前年度、今までの感

じで、まず表紙を全面でやっていきたいというのと、あと、やっぱり鈴木委員から出た表紙の内容、要は観光であるのか、本当にこれ、また皆さんの、要はインパクトがあるもの、そういうものを手に本当に、これ何ぐらいな感じの斬新的なものがあればなというのを感じているところで。

それで、この間、地区連絡協議会のほうにお願いに上がったんだけど、そのとき質問をいただいて、やっぱりどういう議員がいるんだという意見をいただいて、これはちょっと検討というか、検討までは行っていないのかな、どうだっけかな。そういうのをちょっと載せたらどうだというのを、ある意味ご意見をいただいたので、先ほど石山委員が言われて、また何人かも言われているけど、議員がどういう活動を、どういう思いで、改選があったばかりの1回目なので、どういう方になっているのかというのが、まだ市民も分からないし、区の方たちも分からないという中で、そういう発信をしてほしいということはこの間言われたので、そういうのも導入したらいいのかなと思います。要はインタビュー形式のもの、あと題材、例えば今回の竜巻に関して、これは例なんですけど、竜巻に関して各個人どう思っているのかとか、これからの学校再編をどう思っているのか、これは個人的な、そういうものみんなの意見とか、そういうのを市民に伝えられる場があってもいいのかなというのを感じたところでもあります。

一通り皆さんの意見をいただいた中で、まとめていくとなると、なかなかあれなんですけど。

何かまとめるに当たって。

事務局。

#### ○事務局書記（増田奈菜子君）

まとめるに当たってもう一つ資料をつくっておきまして、資料2、リニューアル案の色分けまとめをご覧ください、

こちらで、事務局の判断にはなるんですが、ビジュアルデザインの刷新、手に取ってもらうための工夫をしている項目については赤色、コンテンツの充実、市民に身近な議会にするための企画であったり工夫をする内容は緑、そして配布、発信方法の強化、届けるための工夫をしているものについては青、その他の意見については白で色をつけて、それぞれリニューアル案、それから書いていただいた詳細、どの議員が提出した意見なのかというのをまとめて書かせていただいて、横に入れさせてさせていただいております。こちらもよろしければ参考にして、まとめを皆さんでやっていただければなと思います。

#### ○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

#### ○（石山和生君）

いろいろある中で、どれから先に話していくかといったら、コンテンツじゃないですかね。ビジュアルとかもコンテンツが決まったらもっと細かく詰めたらいと思うんですけど、まず、さっき中山委員がおっしゃっていたように、どれが削れてどれが削れないのというのは、予算枠は20ページですよ、今。20ページの中で、まあ削れないですわねというのが、かつ各委員会が研修とか視察とかあったら今増やしていますよね。それが基本的にはばんばんに毎回なっているという状況を踏まえたときに、じゃあどうやって新たな、例えば市民の声を聞く的なことを言っていましたし、僕の議員紹介のページというのも言

っていたので、それやるとまた枠が減るわけなので、そこに関してこの20ページ、もしくは予算を増やしてほしいと言うという手もありますけど、正直そこはあまり現実的じゃないかなと思うので、どうかこの20ページの中でどういう企画、コンテンツをやっていくかというのは、先に話したほうがいいんじゃないかと思います。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

今、副委員長からお話が出たように、まずはこのコンテンツのほうからでよろしいですか。問題ないですね。

〔「異議なし」と言う者あり〕

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

じゃあ、そういう中で進めていくに当たって、コンテンツの充実の中で、今出た中で削れるところって、やっぱり一般質問のところを丸々1ページ使っている中で、ほかの議会のほうも半分にしたりとか1ページの中に二人分やったりとか、3人というところもあったかな、たしか。そういう形にして、もっとある意味特集ページを増やす、そっち側を、そういう形にしていくという形もあるんですけど、皆さん、いかがでしょうか。

中山委員。

**○（中山尚大君）**

例えば前つくった周知号に関してなんですけれども、まず最初、所信表明から始まって、定数条例の審議とか審議の経緯とか補正予算の審査みたいな記事があるんですけども、ここに関して、ここは削ったら問題なんですね。

つまり簡単に言うと、議会の活動報告みたいな記事がかなり多いのかなという疑義がありまして、活動報告系の記事だけでほぼ埋まってしまっているのかなというのが、正直思っています。それも大事なんですけれども、議会広報紙の意義として、活動をこちらからアウトプットしていく場でもあると同時に、外部から興味を持ってもらう場でもあると思うので、そういう議会が伝えたいことを伝える場ではなくて、もっと議会に興味を持ってもらうような記事の比率を増やすという考え方もありのではないのかなというふうに考えます。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

ご意見ありがとうございます。今回に関しては改選後一番初めのあれなので、まず。この辺はいいんだよね、正副議長、委員長の所信表明は当然なことの中で、例えば広報の条例でこの辺をコンパクトにすればという話。

菅沼委員。

**○（菅沼保弘君）**

宮崎の市議会だよりというのがあるんですけど、これ、すごく一般質問なんかは1ページに四、五件載せているんですね。確かに見た感じは見にくい。だけど読むかどうかというものは、どちらを取るかかなと思っちゃったんですけど。やたらと細かいです。

**○（石山和生君）**

それは批判的に見て、細か過ぎて駄目だという意味ですか。

**○（菅沼保弘君）**

駄目だということまではいかないんですけど、ページ数を減らすのであれば、そこら辺も考慮して、このところは圧縮しちゃうんだというふうに、客観的にふっとやっちゃ

ってもいいかなという気はしました。

1 ページに 4 人ずつ入っています。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

篠崎委員。

**○（篠崎朗子君）**

同じような感じなんですけれども、一般質問のページを縮小するかわりに、皆さんに何を読んでもらいたいとか、何を見てもらいたいかみたいなことを議員が書く、そこにそれこそ配信の QR コードでもつけておけば、今の子はそっちのほうが見るんじゃないかなという。今日こんなことをやりました、こういうことを話しました、詳細はこちらでみたいな感じでもいいのかなと思いました。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

自分ちょっとイメージが分からない。

**○（篠崎朗子君）**

一般質問の顔があって、内容も、何をやりますかという、こういうことなので、やった内容はあまり細かく書かずに、これについて質問をしました。見てもらえるような誘導する文章を書いて、その隣に QR コードとかぴつというのを貼り付けて、あとは見ってもらう、動画を。

**○（石山和生君）**

動画というのはユーチューブ。

**○（篠崎朗子君）**

ユーチューブです。のほうが若者は、1.5でも2でも見れるので、時短でも見れるのでいいのかなと思いました。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

正直 QR 読みますかね、議会の。だから、僕は文字を小さくしてでも、このくらいは少なくとも載せたほうが。要約ですよ、本当に。本当に簡易的な要約は、どういうことを質問して、どういう返答が返ってきたのかくらいは載せたほうがいいと僕は思いますが。

方針としては、一般質問を 1 ページ当たり 2 なのか 3 なのかにして、我々が今から考えようとする企画、何かしらのコンテンツはそこから捻出するという方向ではいいんですか、方針としては。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

鈴木委員。

**○（鈴木長馬君）**

大体、一般質問を見てみますと、1 ページに 2 人ないし 3 人で行くところが多いと思うんですけどね。ですから、その辺でね。と私も思います。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

僕、個人的には一般質問というのは一番大事と言っても過言ではないと思っているので、

一人1ページ方針が僕はいいと思っていましたが、何か新しく企画をやるに当たって、どこか削らないといけないとなると、削れるところが一般質問しかないというふうに考えているので、その場合はやっぱり仕方ないかなと。ただ、やっぱり尊重すべきなので、最初削るにしても、一般質問1枚辺り2名という体制が僕はうれしいかなというふうに思います。

企画ページも、企画ページの必要な分だけ削らなきゃいけないという話かもしれないので、じゃあ削る方向は削る方向でいいとして、どんな企画ページが必要なんだ。それは例えば市民の声を聞くというのはいいんですけど、これを聞くのは我々なので、どう担当してどうやっていくのか。それがちょっと厳しいのであれば、やっぱりできないという話になるので、その、次こういう新しいページが欲しいよねという、一般質問を削る方向で一旦進んで、どういう企画ページをやりたいのかというのを、今度また、ステージとしてはそういうステージ。

僕はやっぱり紹介ページはできれば1ページほしいなと、常設で。コーナーの見出しは一旦、議員に相談してみようとかでもいいし、何でもいいんですけど、そういうページが1ページあって、本当に見れば農業関係だったらじゃあ谷口議員に連絡しようとか分かるような、市民にとって相談しやすい情報を載せるというのは僕はほしいです。それが1ページはほしい。これがかなわないのであれば、ページをまたいでもいいので、ほしいというふうに思っています。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

中山委員。

**○（中山尚大君）**

確認させていただきたいんですけど、今、石山委員がおっしゃっているのは、1ページの中に16人の議員の詳細がばっと書いてあるみたいなイメージですか。

**○（石山和生君）**

そうです。

**○（菅沼保弘君）**

そういうイメージを毎号毎号やっていくということですか。

**○（石山和生君）**

毎号です。情報は変えても変えなくても、それはその議員に任せますので、基本的には変えないほうがいいかなと思うので。

**○（中山尚大君）**

同じ記事を毎号毎号載せていく。

**○（石山和生君）**

そうです。連絡先です。なので、毎号毎号載せなくてもいいんじゃないかという意見もあるんですが、わざわざ前のものをピックアップして見ないです。

それはホームページにももちろん連絡先は載っていますが、見ないです。だからこうやって、これはすごいことなんですよ、一家に1枚必ず自治会に入っていれば届く媒体って、一応これだけ厚いから見ようかなとなりやすい媒体にちゃんと議員の情報が連絡先まで載っている。連絡先を載せたくない人は載せなくていいと思います。そうすれば、載せたくない議員さんなのねというだけなので。

そういう感じで、僕は毎号にちゃんと1ページ、1ページが無理というんだったら1ページのうちの半ページなどでいいので、常設で設けたいというのが僕の思いです。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

篠崎委員。

○ **（篠崎朗子君）**

連絡先の話があったんですけど、本当に1日4件ぐらいとか電話が来たり、あとはわけの分からない、いきなり市外の人とかから電話がかかってくるとか、そんなことまで起きてたのでちょっと怖いなという部分もあったので、そういう場合はメールとかにすればいいということですよ。分かりました。

○ **（石山和生君）**

電話対応不可なら。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

中山委員。

○ **（中山尚大君）**

ちょっと話が全然変わってしまうんですけども、先ほどほかに削る記事がないというところを確認、私の考えの確認を共有したいんですけど、例えば前回の第81号に関して今見ているんですけど、所信表明は削らないというのは理解できるんですけど、定数条例の審議とか予算の審査というのは、これは削ったら具体的にどう問題なんですか。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

○ **（石山和生君）**

正直そこは本会議の一番議会が何をしているのという、市から出てきている議案、議案というのは要するに我々がイエス・ノーをつける、何をイエス・ノーをつけたのか、それを全部出せているわけじゃないですけど、その中でどういう質問がされたのかというのは広報紙としてはあったほうがいいんじゃないかなとは思いますが、ご意見があれば、ぜひください。

○ **（中山尚大君）**

私もそういう考え方で「かけはし」を編集しているのかなという考えでお聞きしているんですけど、そういうふうに議会の活動報告をしている紙面ということで今こういうふうに成立していると思うんですけど、そこを思い切って、案の一つですけども、それよりはもっと、とっつきやすいような、こういうような硬い内容は全部やめて、議員の紹介とかに、かなり方向を変えていくようなリニューアルの仕方もありなんじゃないかなというふうには、考えの一つとあるんですけども。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

篠崎委員。

○ **（篠崎朗子君）**

他市の議会広報を見ていると、結構それがポップに書かれているものがあるんです。

どうだった、今回の議会というので、写真と議員の意見と、あと議長の議長通信というのと、各それぞれの議案に対する一言みたいなことで、そういう形もあるのかなというがあるので、それはまとめ方というか、今までみたいに堅苦しく載せるんじゃないかと、デ

ザインを変えてポップにすればいいのかなというふうに思います。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

石山委員。

**○（石山和生君）**

その議案のビジュアルの話も大事だと思うんですけど、多分、中山委員が言っていたのは、どちらかといったら、そもそも極論それはなくてもいいんじゃないという、そのコンテンツ自体が極論なくてもいいんじゃないかという話だったと思っています。ちょっと行き過ぎかなとはやっぱり思うので、そこまではやっぱり、一応議会の広報なので、議員の活動云々は、一応それは普通は政治活動で行うべきことという立てつけというのがやっぱりどうしてもあるといえればあるなと思うので、議会の審議とかはやっぱり削れない。プラスオン、やりたいこと新たな企画ページのほうで話すべきかなと思います、僕は。これは僕の意見です。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

それこそ定例会ごとに出していると、この定例会というのは本当に議員の中で、一番議会の中でも大切な部分なので、これを、やり方にもよるかもしれないけど、さっきのポップ的な感じでしたらどうだというのは。ただ、これは絶対外せないものであると思うので、やっぱりどうしても特集ページをつくるなら、一般質問のところを二人ぐらいに、この前よりはちょっと半分ぐらいになるかなというところに落ち着いてくるのかなと感じていると、個人的には思うんですけど。

事務局。

**○事務局書記（中田 綾君）**

令和6年の1月に、正副委員長はそのときも当時の委員にいらっしゃったのであれなんですけど、オンラインで広報の研修を受けた際の研修で得た知識なんですけれども、現在の議会広報紙の傾向としては、ページ数は、うちは今20ページですけれども、少なくなっている傾向にあって、20ページあるところはちょっと多いかなという傾向です。

一般質問、それこそ一人1ページというところは今かなり多分、少なくなっていて、1ページに二、三人載っているところで、大体、顔写真が載っていてQRも載っているというのが多いかなというところで。

今、多分うちの広報紙は定例会の質疑とかほとんど全て載せていると思うんです。かなり文字数も多くスペースも多く取っていると思うんですけど、多分もっとうちよりも大きいところでもページ数は少ないところはたくさんあるんですけれども、そういう場合、やっぱり市民が興味があるトピックスにかなり絞って、かつイラストや写真も多く使っていて、読むというよりも見る、見て分かるというような広報紙が増えているような傾向があるかなと思います。なので、ページ数を減らすとすると、やっぱり内容を絞っていく、定例会なり補正予算なりを絞る必要はあるのかなというふうに感じています。

以上です。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

今話をもらったのは、多分ページ数を減らす話の中で、コンテンツごとは減らせないけ

ど、コンテンツの量は多分減らすことができれば、ページ数としては空くという話かなと思ったので、確かに質問、答えが五、六個もいないんじゃないかという話ですよ。

若干難しいのが、文字の大きさ、結構それは小さいじゃないですか。けど、内容をいっぱい入れようとする小さくなるというジレンマがあると思うんですけど。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

菅沼委員。

**○（菅沼保弘君）**

短縮はされているんですけど、端的にしています。予算だったら、予算の金額の最初はこうで歳出はこうで差引きどうだった、その3行で終わっちゃっているんですよ。だから、内容をそんな誰が何と言ったかということはあまり言っていないんですよ。だから、項目自体を絞り込んで、メインのところだけしか拾っていない。ページ数を減らして、本当に市民が興味を持ってそうなところだけをピックアップしているんです。一般質問の賛成、反対もちゃんと書かれているんですけど、その頭の紹介文がほとんどない状態にしているの。

**○（石山和生君）**

うちでいう見出しみたいな感じ。

**○（菅沼保弘君）**

そうです。見出しとか、あと質問した内容を書くということはないので、非常に短くなっている。ただ字は小さいです。字は小さいです。字は小さくて、これで取っかかれるのかなと僕も思いました。

そんなところで、議会だよりなので、議会の中身はやっぱりちょっと減らせないんじゃないかな。やったことをいかに短く端的に皆さんに伝えられるかどうかをやればいいのかと思ったんですけど。そんなところですよ。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

中山委員。

**○（中山尚大君）**

私はまだ意見が変わっちゃうのかもしれないですけど、私の意見として、議会広報紙って、市民と議会をつなげる窓口の役割であることが一番大事なのかなというふうに思うんですね。そういう中で、非常に大まかに言うと、今のかけはしってかなり情報量も多く、ちょっと取っつきにくい部分がある。読むとき気合を入れないと、文章も多いので読みにくいので、かなり気合を入れていかないといけないのかなと。そうなってくるとやっぱり読む人も減ってきてしまいますし、本当に内容も伝わる人がかなり限られてきてしまうんじゃないかなというような考えではあります。

その状況を、せっかくりニューアルというこのタイミングがあるので、もっと全体に広く、逆に言うと浅くてもいいので、少しでも多くの人に届くような方向性に持っていくのがリニューアルの案としていいんじゃないかなというふうに考えています。

広く浅く誰にでも届くとなると、文章も本当にこういうふうに、今言ったように、例えば定数条例の審議とかという話をさせていただきましたけど、そういうところが、もちろん記事として扱うのはいいんですけども、文章として問いと答えがあってみたいない感じで、かなり論理構造が複雑になっているので、こういったような読み深めなきゃいけない

ような文章は削って、概要だけ、こういったことがありました、ありました、ありましたという状況報告だけみたいな文章にしてしまうと読みやすくもなるのでいいんじゃないかなというふうには思います。そこで興味を持った方はご自身で各自調べていただく方もいるでしょうし、議員の各人に問合せをする方もいるでしょうから、そういった強く議会に興味を持っている方には、各自調べる方はお任せするという形で、少しでもいろんな方に届くような書き方だとか、議題の扱い方にしていったほうがいいんじゃないかなというふうに感じております。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

ありがとうございます。

菅沼委員。

**○（菅沼保弘君）**

今の議会だよりの中に、意見の交換会だとか、あと議員のお仕事という、子供が興味を持ちそうな、そんな内容から始めているんですけど、意見の交換会というのは最初、様式をリニューアルした時点で意見はもらえないんですよ、一発目は。だから、その分、何かのアピールする題材を一回入れて、今回アンケートを入れるという話になっていますけど、アンケートの結果でどういうふうに動くかって、毎回だんだん変えていくんじゃないかなと。

**○（中山尚大君）**

なので、一発で決めないで、流動的に今後もアップデートしていくということですね。

**○（菅沼保弘君）**

流動的に変えてくということをしていかないと、多分追いつけないと思うんですよ。自分たちの考えと市民の考えとは違うんだという意識をまず持って、そのずれをどうやって押さえていくかというところを皆さんで取っていくのがいいかなと思っています。

以上です。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

ありがとうございます。

石山副委員長。

**○（石山和生君）**

一回整理させてもらおうと、ページを、何か新しいものをやるのであれば削るだから、削れるものを探す。一般質問のほうは減らせそうですね。ここは多分合意が取れています。

ほかの各ページ、さっき中山委員がおっしゃったのは、各ページの問い、答えの論理構造を変えることによって。

**○（中山尚大君）**

本当に見出しだけみたいな感じで、紹介みたいな感じ。そういう書き方でいいんじゃないかなと。

記事の読み方として、気合いを入れてきちんと読み深めなきゃいけない記事と、軽くパラパラ見られる記事という両方があったほうがいいのかなどは思うんですけど、今はかけはしはちゃんときちんと読み深めなきゃいけない記事が多過ぎるのかなという考えが私にあります。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

鈴木委員。

○（鈴木長馬君）

例えば4ページ、5ページを見てみますと、いろんなカラーで色づけしてありますね。それが逆に見づらくなっちゃっているものですから、シンプルにしていけば内容も詰めて減るんじゃないかなとか思うんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

石山副委員長。

○（石山和生君）

ビジュアルは本当に、ビジュアル関連はいろいろ改善できそうなところがたくさんあると思うので、すみません、それもまた今度話しましょう。今日は無理でしょう。今日は多分、全然無理だと思いますよ。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今それこそたくさんのご意見をいただいている中で、アンケートで、アンケートを参考にして、そこで集約していければなと思っているので、スケジュール的なこともあるので、副委員長。

○（石山和生君）

なので、減らす案は、ざっくりは取りあえずまず一般質問というのがあります。ほかもあるかもしれないという状況で一旦置いておいて、やりたい企画が実際は数ページしかないければ別に一般質問のほうだけで処理できちゃう可能性があるのも、やりたいこと、さっきおっしゃった議員の仕事って何とか、そういう議会とかの仕事そのものの紹介ページをつくらいいんじゃないかとかというのもきっとあると思うし、私が言っている議員の紹介ページみたいなものがあつたほうがいいんじゃないかとかもあると思うので、企画、要するに今とは違うやりたいことというのが何があるかというのを今、あとちょっとですけど話したいですね。皆さんのほうでそれはありますか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

これはあるときとないときと分かれると思うんですけども、もし市民の方からこういうものを聞きました、それをこのように解決しましたというようなことがあれば、そういうページをちょっと設けていただければ、こういうふうに言えば何とかしてくれるのかもなということが伝わるので、あつたほうがいいかなと思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

確認なんですけど、それは議員の個人活動の話をしていらっしゃるのか、それとも議会全体の活動の話をしていらっしゃるのか、どちらでしょうか。

○（篠崎朗子君）

個人の話です。なので、先ほどの何が得意かというのと同じなんですけど、領域が。なので、こういうことをお願いすると、この人はこういうことに対応できるのねということが分かるのではないかなと思います。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

中山委員。

**○（中山尚大君）**

アイデアとしてはすごくいいんですけど、単純に編集のルールとして、前回も1号一議員特集をしたらどうかという話をしたらば、不平等感が出てしまうんじゃないかみたいなお話があったんですけど、そこというのは明確なルールとかがあるんですか。個人だけを扱ってはいけないとか。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

やっぱり基本的には公平中立というのと同様に、量、分量というのも基本的にはやっぱり一緒くらいにしておく必要があると思います。個人のもは基本的にはやっぱりそれは政治活動でやるべきことだというふうには思います。なので、そういうことをやって、今、多分おっしゃっている個人の、全員がやっていれば全員同じ分量を出せるんじゃないですかという話かもしれないですけど、全員がやっていない可能性もあるので、そうするとなかなか難しいよねというのは思いますね。私はやった、私はやった、この人はやっていないとかとなっちゃうと、それはだから難しい、現実的には難しいんじゃないかと思っています。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

中山委員。

**○（中山尚大君）**

要は、つまりかいつまんで言うと、この議会広報紙で個人の活動に関しては扱わない方針で行ったほうがいいという考えですね。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

そういう中で、一般質問とかそういうところで織り込めば。要は、もし議会でやったら全面的にどんと載せたいと思うし、議会でこれだけやった。それは議員のあれになっちゃうので、個人的なあれになっちゃうので。

**○（石山和生君）**

今の補足で。今、委員長がおっしゃったように、自分のことをやるのは、一般質問は逆に全然やってオーケーなので、この質問をした背景としてはこういう相談者がいたからこういう相談をやりましたとかというのは全然オーケーなはずなので、自分のアピールといったらあれですけど、自分がどういう質問をしたかみたいなのは、むしろ一般質問の、それは本会議の中の出来事なので、全然オーケーという感じだと思います。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

篠崎委員。

**○（篠崎朗子君）**

さっきの意図というか、それも個人がということに限らず、結局、先ほどもちょっと言ったんですけど、一方向からじゃなくて双方向で行きたいので、一般質問に市民の声が出てくるというのも一つだと思うんですけど、なるべく市民の方が何かということに対して答えるという形のページがあればいいのかなと思いました。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

○ **（石山和生君）**

一旦、市民の声を聞こうみたいなコーナーということですよ。それはそれで一つ案としていいんじゃないでしょうか。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

鈴木委員。

○ **（鈴木長馬君）**

個人の声聞いて、それで対処する場合に市のほうに連絡が行くわけですね。そうしますと、基本的に市の仕事そのものがすごく膨大な数になってくると思うんですよ。その辺はどう考えますか。

○ **（石山和生君）**

まず、今、案を取りあえず出して、今言ったように多分できない可能性もあるんですよ。なので、できないはできないで、またこのフェーズ、出た後に、今言ったような、じゃあたくさん来たらどうするのみたいな話は次のフェーズでやらせてもらいたいなと思うので、その懸念点はやるべき懸念点なので、取りあえず今このフェーズは案をたくさん出して、実現不可能なんだったら不可能は後で判断させてもらいたいなというふうに思います。

今出ているのは僕の紹介ページの話と、さっきの、菅沼委員は、議員の仕事ってみたいなものは例として出されていただけで、別にやったほうがいいと思っているわけではないですか。

○ **（菅沼保弘君）**

牧之原市の市議会として、議会でこんなことをしていますよというのを出していないと思うんですよ。それを4回ぐらい連載したらというのは書いたんですけど、実際にはこんなものがあります。

○ **（石山和生君）**

議会の仕事ってみたいなことですか。

○ **（菅沼保弘君）**

そうです。議会自体の仕事って何という。

○ **（石山和生君）**

だけど、大切な話かもしれませんね。だって、今回無投票になったわけですから、議会の仕事って、みたいな紹介コーナーみたいなものがあつたらいいんじゃないかという話ですね。

○ **（菅沼保弘君）**

それをしちゃうとページ数を結構使うので。

○ **（石山和生君）**

だけど分ければ、毎回1で分けるというのは。

○ **（菅沼保弘君）**

続けてもらえばいいかなという感じ。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

これはちょっと事務方だけど、議会の仕事って何って、議会報告会なんかではやってい

るんですね。やっているのは、一番冒頭に議会とはというのをやっているけど、広報紙では確かにその基本的な部分を出していないなというのは感じているので、それはまた。

○（菅沼保弘君）

できれば中学生、高校生とか、下の人に分かりやすいようなことを訴えて行って、行く行くはその人たちが議会に魅力を持ってもらえれば助かるんだけど。そんなベースをちょっと上げてやるというか、議会側が下げてやれば、もうちょっと分かりやすくなるんじゃないかな。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

取りあえず今回は案としては、議会の仕事に限らず、立候補者を出すというか、立候補者というか議会、そういう内容とは別の紹介、紹介ページ、議会とか議員とかそういう関連の紹介ページがあったら、仕事自体の紹介ページがあったらいいんじゃないかなということですね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ほかには何か。

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

勉強ページもその下とかに載せてください。用語とか、あと、こういうところを基にしてこういうお話をしていますとかという、それも興味がありそうなところでいいんですけど。

○（石山和生君）

すみません。もう一回いいですか。

○（篠崎朗子君）

議会用語とか、用語解説をもっと分かりやすく。例えばそれこそ主権者教育とかもこの前。

○（石山和生君）

用語解説ページ。

○（篠崎朗子君）

用語解説、もしくは主権者とか何々とはみたいなことで、高校生とか中学生が公共とかで勉強するような内容を盛り込んでもらえたら。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

今おっしゃってくれたのは、ページの隅っことかにあるとかじゃなくて、特出しして1ページなのか半ページなのかを使って、用語解説ページみたいなものがあつたらいいんじゃないかということですね。

ありがとうございます。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

鈴木委員。

○（鈴木長馬君）

若い人にも読んでもらいたいということで、例えば高校生の意見とか、そういうものについての広めていくようなものをちょっと載せてみて、意見を聞かせてくれって、そういうふうな企画みたいな。

○（石山和生君）

意見を聞きに行く。

○（鈴木長馬君）

聞きに行くか。

○（石山和生君）

来てもらう、来てもらうというか、市民の意見を聞くコーナーですよ。

オーケーです。ありがとうございます。

○（中山尚大君）

案の一つとして、この前、井柳先生がいらっしゃったときに、漫画の葬送のフリーレンとのコラボがすごく評判がいいみたいなことを言っていたので、著作権とかもあるので具体的な漫画は難しいのかもしれないですけど、そういう何かしら漫画を使うだとか、何かしら外部のものとコラボとかをしてみると、意外と議会って融通が利くのかな、柔らかいのかなみたいな印象を受けると思うので、そういうコーナーもあってもいいのかなとは思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

今のは、例えば地域団体紹介コーナーみたいなということですか。

○（中山尚大君）

そういったもので結構です。

○（石山和生君）

漫画のやつは、どちらかというビジュアルの話、伝え方の話ですか。

○（中山尚大君）

ビジュアルの話伝え方の話もありますし、そういう普段手元にあるような漫画とコラボしているということで、親近感が沸くという。

○（石山和生君）

じゃあ、コーナーとしてここにメモしておくのであれば。

○（中山尚大君）

ビジュアル面で親しみを持たせるような漫画を取り入れるという点と、もう一つが身近なものとのコラボをすることで親近感を沸かせるという。

○（石山和生君）

地域団体紹介コーナーみたいなということですか。こんな活動をされていますみたいな。議会と関係があるのかといわれるとあれなんだけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今言われたとおり、これは議会のことなので、諸団体コーナーになっちゃうとちょっと違うかなというのは。なもので、そこら辺は議会、あくまでも。

事務局。

**○事務局書記（増田奈菜子君）**

例なんですけど、島田市議会だよりなどは、例えば静岡空港の社長さんだったりとか、そういった方に議員さんがインタビューをして、その記事が載っているというパターンもあるので、そういった意味の地元のコラボというのはできるかもしれませんが。伊藤園の社長さんだったりとか、地元で活躍しているこの人、波乗りレモンをやっている方だったりとかに話を聞くことで、市議会とは直接じゃないんですけど市のトピックス、議員の人と、今、牧之原市で熱いこの人の対談みたいなことは、やったら中山委員がおっしゃるようなコラボになるのかなというのは思いました。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

なるほどね。ありがとうございます。十分な検討材料になります。

副委員長。

**○（石山和生君）**

ちょっと時間もあるので、とはいえここが一番大事だと思うんですよ。どういうコーナーが。まだ次回にもその話を。ここで切っちゃう。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

菅沼委員。

**○（菅沼保弘君）**

ちょっとまだ見習い実習生なのでよく分かっていないんですけど、今後の市議会の市民との対話とかイベントがありますよね、年間の。そのイベントってどんなものがあるんですかね。そのイベントごとに市議会議員が出て行って話をしているんだったら、それは一つのイベントですから、それだけでも一、二ページ使っちゃうんじゃないですか。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

市民とのものは、やっぱり議会報告会というところになると思う。年に三、四回、高校生のところに行ったりとかもあるんですが。おっしゃるように、それをやったら大体特集ページが組まれます。なので、それは既に今までどおりの、ビジュアルは工夫しがいがあるとしても、コンテンツとしてはやっぱりそういうのがあったらページにするというのは、基本的にはやってきています。

**○（菅沼保弘君）**

そこら辺を入れたら、ページ数が大分減ってくるので。4回もあったら、大体入れることになっちゃうんですね。

**○（石山和生君）**

大体毎回。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

毎回入れています。

**○（菅沼保弘君）**

だから、その年のイベントを考えながら、そのときそのときで入れるものが変わってくるというイメージがあるんですけど。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

それはそのとおりですよ。今回もこのページは何にしようかと話したように、毎回やったりやったこと、やっていないことがあるので、載る、載らないというのはあると思います。ただ、常設で必ず載せたいというものがあるのか、さっきの、例えばこういうのは通して4回できればいいんだったら、別に時期はあれだしたら、そういう特集ページがないときに入れようとか、そういうタイミングタイミングでの出し方になると思います。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

ちょっと補足になるかもしれませんが、さっき言った議会報告会、あと市民会議、各委員会でやるんですけど、それは確実に載せて、とにかく市民の声を聞きたいという、それはこれまでもやってきていることなので、それは確実にやっていきたいな、載せていかなきゃいけないものだなと、自分の中では認識しているんですけどね。それは恐らく今後もそういう形でやっていくと思います。

今出た話の中で、副委員長が言ったとおり、議員紹介ページの常設、これは毎回載せるという話、コメントは変わらずに。

**○（石山和生君）**

僕の希望はそうですけど、皆さんが、いや、それはというんだったら話し合いましょうという感じですね。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

その中に意見を、篠崎委員のほうはあれだよ、意見を市民から拾いながら、要は双方キャッチボールできるような感じのイメージ的に。

**○（菅沼保弘君）**

そうすると、市民会議の延長線上で、例えばもっと回数を増やしちゃって各区ごとでやったらどうなんですか。すごい数ですけど。

**○（石山和生君）**

何をですか。講習会みたいなもの。

**○（菅沼保弘君）**

市民交流会みたいな。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

まだ出ていないのかな。議会報告会、今度は何区。

要するに毎回全部は無理なのであれですけど、去年は細江に行ったから今年は細江なしで静波に行こうみたいな感じで、一応各区ごとにそういうことはやっているといえ、やっている。毎年全部じゃないですけどという感じです。

それは多分5月に、我々も5月にやるという予定だったと思います。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

事務局。

**○事務局書記（増田奈菜子君）**

石山委員が今おっしゃっていただいたとおりなんですけれども、そこを決められるのは実は議会広報特別委員会ではなくて議会運営委員会だったりとか別の場になるので、もし報告会の内容でこうしたいと、例えば菊川市だったら全部の区で議員さんを各二人で回してやるみたいなこともやっているの、そういったご意見があるんだったら、ここじゃない別の委員会であつたりとか、議会運営委員会の方にご意見いただければよいかというふうに思います。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

それもそうなんです、今言ったのは、全員で行く場合はそうですけど、我々はすごいやる気で、広報特別委員会として市民から意見をもらうんだみたいなのは別にやろうと思つたらできますよ。それは今アイデア出しの段階なのでいいんですけど、実際にやるとなつたときの難しさとか、そこら辺はやっぱりもちろん議論しなきゃいけないと思つたんですけど、やろうと思つたらそういうことはできますよ。プラスオンで。議運とかのやつとは別で。

だから、補足として、広報広聴委員会ってよくある委員会、うちは広報特別委員会ですけど、広報広聴特別委員会というのがよく聞く、視察とかに行くとそういう委員会の名前があつて、広聴というのは要するに聞くという役割も入っているよみたいな話、うちは一応広報なので、さっきの一方方向だとかという話なんですけど、一応そういうくくりでやっているとところも多いので、そういうことをやろうと思えば別にできるとは思つたよという。

ただ、やっぱり仕事の重さとかも含めてちゃんと考えないといけないとは思つたよ。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

いかがでしょうか、ほかには。

**○（石山和生君）**

今後の動きとして、多分、今日、企画こういうのをやったほうがいいんじゃないですかとって結構議論は熱く話しましたが、ここが一番大事だと思うので、後からこれもとなると議論が大変になつちゃうので、次の18日も何をやるべきかという話を継続、18日にこれの続きをやりながら、次、じゃあこれは実際やれるの、やれないのという議論まで次回やっちゃいたいですね。

なので、さっき言った、多分このページ全部は無理だと思うので、難しそう、さっき、石山委員それは毎回もいないんじゃないかと、それも含めてそれは次回なので、次回の前半はやっぱり今言っているこういうコーナーもほしいよねというのを出し切っちゃってやったほうがいいかなと思つていますが、よろしいですか。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

皆さん、いかがでしょう。

中山委員。

**○（中山尚大君）**

ここまでの段取りとして、今おっしゃっていただいたように、リニューアルの話合いというのは、あと何回ぐらい持たれる予定ですか。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

アンケートもあるので、それまでには我々の考え方、そういうものをまとめていきたいなというのはありますね。

**○（石山和生君）**

とはいえ、結構厳しいんじゃないかと思っています。一応目標としては次の次なので、大変になるかもしれないけど、次の編集で集まるタイミングの後には必ずリニューアルの話をするくらいスケジュール感でやらないと厳しい。もしかしたら、やっぱりちゃんとやるんだったら、けつが決まっていて、それに向けてしょぼくてもリニューアルするというパターンAか、いや、ちゃんと話をしてもっとちゃんとやるんだとって、1個遅らせてでもやるかという判断はどこかしらでしなきゃいけないと思うんですけど、とはいえやっぱり今回話したように、話したら切りがないところもたくさんあるので、目標はやっぱり次の次で出すんですけど。という感じだと思います。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

中山委員。

**○（中山尚大君）**

すみません。時間なので手短に言いますけれども、ごめんなさい、私も繰り返しとなるんですけど、やはりリニューアル案で記事の内容も石山委員が大事だというのは大変よく分かるんですけど、私は配布方法が物すごい大事だなと考えています。そっちも時間を取っていただきたいというのが私の個人的な気持ちです。

以上です。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

その意見もしっかり取り入れて参考にしていけばと思いますが。

篠崎委員。

**○（篠崎朗子君）**

皆さん、リニューアルしたいときにやりたいコンテンツの中のデザインとかというの、もしイメージがあったら、パース図を持ってきたほうがいいですか。そこはいいですか。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

**○（石山和生君）**

あったらそれはありがたいという話ですね。なので、実現したかったら、そういうものがあつたほうが回りが説得されやすいなとは思いますが、別に口頭でもいいだろうというんだつたら口頭だけでもいいと思います。その場合は事務局に提出してもらえば、参考資料として出してもらえenと思います。

**○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

事務局。

**○ 事務局書記（増田奈菜子君）**

次回の委員会、2月18日13時半からで、次回の委員会までにもしビジュアル面であつたり参考にした自治体の議会だよりがあれば、送っていただければ次回の委員会資料として、事務局側でその議会だよりをダウンロードしてこのタブレットの中に資料を入れさせていただきます。それとは別に今日出た意見、それから今日までに出していただいた、い

ろんなリニューアル案について、また色分けしたりとか、各委員さんが出してくれた意見ということで、同じように意見の一覧にまとめさせていただくという形でよろしいですかね。

分かりました。

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

じゃあ、いいですかね。

〔「なし」と言う者あり〕

**○議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

じゃあ一通り、今日の委員会のほう、お疲れさまでした。ありがとうございました。

〔午後 12時02分 閉会〕